

吉野川と地域文化・景観を 考えるワークショップ

平成21年10月21日発行

第3回ワークショップを開催しました！

地域文化・景観に配慮した堤防整備のための「吉野川加茂第二箇所 吉野川と地域文化・景観を考えるワークショップ」の第3回目が、平成21年10月13日（火）に開催されました。

日時 平成21年10月13日（火） 18:30～20:30 **主催** 吉野川中流域地域文化・景観懇話会

場所 東みよし町役場2階多目的ホール **参加者** 東みよし町の方々 10名

テーマ 「『大切な地域文化・景観』と堤防整備について考える」

プログラム

1. 当日のスケジュール説明
2. 第2回ワークショップの報告
3. 堤防整備計画について
4. テーマについて
5. グループに分かれての話し合い
6. 次回の連絡



本ワークショップは、「吉野川中流域地域文化・景観懇話会（会長：山中英生 徳島大学大学院教授）」が主催しています。第3回ワークショップには、懇話会から、山中英生会長、平井松午委員、三好末吉委員、前田安夫委員、大谷國廣委員も参加しました。ワークショップ開催にあたっては、徳島大学地域創生センターが地域貢献事業として協力しています。

堤防整備による景観の変化

新しく整備される堤防の概要について説明され、対岸やまち側からみた景観の変化も示されました。

堤防完成後の景観の変化

対岸からの眺め



堤内（まち側）からの眺め



堤防上からの眺め

堤外（川側）



堤内（まち側）



新しい堤防の上からは、
新しい風景を見渡すことが
できるようになりますね！



※吉野川水系河川整備計画によるイメージであり、今後の詳細な検討によりイメージの変更が生じる場合があります。

今回のみなさんの話し合いによって浮かび上がってきた大切なもの・ことと堤防整備の関係

● 河畔の竹林・樹林と堤防

関係性 堤防整備による河畔林への影響は大きく、その影響の仕方も様々である。

要望 竹林や樹林のある河畔の風景は残したい。

- ・竹林中を通る堤防
- ・竹林の前を通る堤防
- ・点在する印象的な高木 などについては、これから考えていかなければならない。

● 川に係る道と堤防

関係性 川へ続く道が堤防により分断されると利用にとって支障がある。また、人が川に行かなくなると、川も荒れてしまう恐れがある。

要望 車が通れようにするなど、今まで通り川へのアクセスを確保してほしい。川を使いやすくすることで、多くの人の目が集まるようになり、川をきれいに保つことにもつながる。

● 高島・こまたと堤防

関係性 高島やこまたの地形や空間イメージが大きく変わる可能性がある。

要望 こまたは吉野川と係ってきた大切な場所であり、地域の記憶として残したい。高島は中州のイメージではあるが、どうすべきかは難しい。

など

参加者のみなさんが思い描く こんな吉野川にしたい！



だんだんと参加者のみなさんの中に
河川空間のイメージが
湧いてきたようです！

- 人が大勢集まって楽しく過ごせる空間
- 竹林や樹林のある河川の風景

ワークショップ 参加者の声

ワークショップを終えた
参加者のみなさんの感想
をご紹介します！



- 参加者のみなさんより新しい知識を学びました。地域の財産を守りたいと実感しました。
- 堤防ができることで、景観が大きく変わってしまうのだと分かりました。

編集後記

これまでの話し合いを通して、吉野川と地域とが密接に係ってきたことが良くわかりました。その中でも、こまたは水量の多かった吉野川本流よりも安全な遊び場として認識されていたこと、洪水に関する言い伝えが残っていることなど、地域にとって特別な場所であることから、その記憶が消えないような形で残るといいなと思います。今後、地域のみなさんにとって大切なものと堤防整備がどのように調和されるのかがとても楽しみです。

竹内 彩